

第5回 認知症の医療と生活の質を高める 緊急プロジェクトの再開について

1 プロジェクトの再開について

- 今後の認知症施策を更に効果的に推進するため、標記プロジェクトを設置し、平成20年7月に報告書が取りまとめられた。
- 報告書においては、①実態の把握、②研究・開発の促進、③早期診断の推進と適切な医療の提供、④適切なケアの普及及び本人・家族支援、⑤若年性認知症対策を積極的に推進することとされた。
- 更に、報告書においては、これらの対策の実施状況についてフォローアップ・検証を行うこととされている。このため、報告書の提言のうち、当面の対策として求められた上記③～⑤の対策について、本プロジェクトを再開し、フォローアップ・検証を行うこととする。

2 主な検討事項

- (1) プロジェクト報告における当面の対策にかかるフォローアップ・検証
 - 早期診断の推進と適切な医療の提供
 - 適切なケアの普及及び本人・家族支援
 - 若年性認知症対策

} 実施状況及びそれに基づく
今後の方向性の検討
- (2) その他

3 スケジュール

- 本年9月から2～3回程度

4 構成員（現プロジェクトメンバー）

○ 有識者

- 朝田 隆（筑波大学教授）
- 岩坪 威（東京大学教授）
- 遠藤 英俊（国立長寿医療研究センター内科総合診療部長）
- 中島 健一（日本社会事業大学教授）
- 永田久美子（認知症介護研究・研修東京センター研究部副部長）

○ 厚生労働省

老健局長、社会・援護局長、障害保健福祉部長、医政局長